

優勝を目指せ!

英語暗唱スピーチコンテスト

九月二日に英語暗唱スピーチコンテストが開かれました。中学一年生から高校三年生までの各クラス代表メンバーが出場し、学年別で決められたテーマに沿って原稿を暗唱するコンテストです。この校内での大会で一位になった人が九月二十七日に行われる肝付町英語暗唱スピーチコンテストに出場することが出来ます。今回の発表者は、一年生の古里鳳真さんと八重山献心さん、二年生は松宮琉太さんと栢夏輝さん、三年生は金子元さんと末吉陽さんです。また、中学一年生の発表内容は「Curry and rice」で、二年生は名作「The Restaurant with Many Orders」、三年生は「Do you want some rose?」という発表内容でした。年々、レベルが上がりつつあるスピーチコンテスト。今回エントリーした人々には、身振り手振りを使った豊かな表現に、色々な工夫がみられました。授業に対する関心・意欲が沸ききつかけとなった人も、是非、来年は参加してみてもいいでしょうか?

〈白川〉



えっかね祭り

中高の生徒会役員(中学から四名、高校から十四名)が九月一日に内之浦漁港で行われた、えっかね祭りにボランティアスタッフとして参加させて頂きました。ボランティアの内容は伊勢海老味噌汁の無料配布や、輪投げの手伝いなどでした。えっかね祭りの醍醐味とも言える伊勢海老味噌汁の無料配布の様子です。私含めて四人の中学生が担当しました。このような経験から改めてボランティアの大切さを実感しました。

〈梅木〉



お知らせ

生徒会の短所の一つに生徒会役員のことを知らない人が多くいることがあります。そこで我々生徒会役員がそのことを改善するために日頃思っていること、友達や学校に対する思いなどを自由に書いて貰い、自分という人間を表現して頂きました。著者は写真やレイアウトなど工夫して書いて貰います。ちょっとしたコラムとして私達のことを少しでも知っていただけたらと思います。新コーナーを設立させて頂きました。コーナー名は「CHAT」です。これは日本語で雑談する、おしゃべりするを意味します。記念すべき第一回は下枠に載せてありますので是非、読んでみてください。

蛍光ペン・著・梅木

生徒会活動をするのも一カ月が過ぎ、仕事にもようやく慣れてきました。そこで私はこの場で皆さんに意見したいことがあります。それは、SDGsに対する意識の向上と、その具体的な、対策活動の実施についてです。

SDGs(エスディージーズ)とは、国連が二〇一五年にまとめたSustainable Development Goalsを略した言葉で「持続可能な開発目標」を意味します。二〇三〇年までに、先進国・発展途上国の区別をなくし、貧困や飢餓、環境問題といった世界の課題を根本的により良い世界を目指すものです。

もし、SDGsが達成されなければ、世界はどうなるのでしょうか。人口増と気候変動により、二〇三〇年には、全人口の半数近くが水不足に苦しむと予測されています。また人口増加が予想されるアジア・アフリカでは、下水処理が追いつかず、衛生状況が悪化する可能性があります。世界は、あらゆる人や国、組織が協力し達成に向けて行動することが必要

CHAT BY HIDAKA

こんにちは。図書委員会、委員長の日高です。今回からこの新たな企画で生徒会役員が書くことになったのですが、私が最初の一人になるといふことなので、正直とても緊張しています。最初ということでも、委員会の説明からしたいと思います。

常時活動では主に本棚整理をしています。返された本を元の場所へ戻したり、違う場所に置いてある本を片づけたらというような仕事です。他の委員会とは違い、直接学校に関わったり、行事を大々的に行ったり

です。楠生生にでもできることはあるはずですが、身近なことからでも取り組みはできます。リサイクル活動やゴミ捨て、使用していない家電の電源は切るようにするなど、沢山あります。一人一人の行動が未来に繋がると考えSDGsに対する意識を深めていくことが大切だと考えます。中学生徒会においてもSDGsの実現に向けての行動を中高で協力して行っていくでしょう。

〈梅木〉



するような委員会ではありませんが、その分図書について集中して取り組むことができます。新刊本が入ってきたときにすぐ知ることがができるので、そこは役得だと思えます。

これからも久木元先生と稲村先生を始めとする図書委員会一同で、楽しくより良い図書室を作るため日々努力していきますので、是非、図書室へ本を借りに来てみてください。どうぞ宜しくお願いします。

中学生徒会図書委員長
日高凌太郎

仰げば尊し〜原田先生〜

先日、東京オリンピックパラリンピックに向けたマラソンの代表選手を決める、マラソンランドチャンピオンが行われた。男子三十一名、女子十二名がそれぞれ二つの代表権をかけて戦った。私もこれまでマラソンを四度走ったことがあるが、本当に過酷な競技である。四二・一九五kmという果てしない距離を必死に走っていく。初めは体力もあって軽快に体を動かすことができ、「これならかなりいいペースでいける。」と思うのだが、やはりそんなに甘いものではない。とくに中間点を過ぎてからは地獄である。体の痛みや暑さで、本当に「やめたい。」と思う。「なんでこんなことに挑戦したのだろう。」と自問自答する。それでも、なんとか頑張って進んでいる。最後にはゴールという達成感が待っているのだ。

学校生活も同じだ。十月になり、一年間の学校生活の振り返り地点を迎える。これまで頑張ってきたこと以上に気合いを入れなければいけないことがたくさんあると思う。後半は、それぞれの学年の締めくくりに向けたラストスパートともいえる。この一年間、「頑張ってきた良かった。」と思うように日々の努力を続けていってほしい。努力した先には、最高のゴールが待っているはずだ。

【編集後記】

令和元年度の新生徒会が発足し、生徒会新聞「魂魂」も二刊目を迎えることができました。今刊では、宮島先輩や中井先輩などが開設し、創り上げた伝統「仰げば尊し」に、「蛍光ペン」に加え新コーナー「仰げば尊し」を開設しました。中学生徒会役員が日頃考えていること、思っていることを自由に書いて頂きました。是非読んでみてください。暑かった夏も終わり、涼しい秋の季節の変わり目となりました。体調管理をしっかり行い、体に気をつけて充実した日々をお過ごしください。

十月生徒会新聞 発行責任者 梅木岳人